TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

各地で大規模サイバー攻撃による影響(続報その 2)

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動火災保険株式会社
（2017 年 7 月 10 日）

6 月 28 日号･29 日号、7 月 3 日号にてお伝えしました、マースク社への大規模なサイバー攻撃による混乱が収束へと向かっております。本号では、本件の最終号として収束の結果と今後の見通しについてお伝えいたします。

1. マースク社および APM ターミナル、通常通りのサービス提供へ

現地時間の 6 月 27 日、欧州を中心に暗号化型ランサムウェア（身代金要求型）「PETYA」による大規模サイバー攻撃が確認され、海運大手 A･P･モラー･マースク社が運営する世界各地の 76 の APM ターミナルのシステムに支障が出ました。システムは徐々に復旧を開始していましたが、今般、復旧が最も遅れていたロッテルダムの APM ターミナルが現地時間 7 月 6 日から通常通りのサービスの提供へ戻ったことが確認され、マースク社は影響を受けた全ての APM ターミナルが通常通りのオペレーションに戻ったと発表しました。また、同社 HP によると限定的に利用可能であったオンライン追跡ツールも 7 月 10 日朝には通常通り利用可能となるとのことです。

2. 今後の見通し

今回の大規模サイバー攻撃は海運業界にとって過去最大の混乱となりました。今回マースク社のシステムがダウンしたことにより貨物の輸送に遅れが生じたため、今後、マースク社は影響を受けた各地のシッパーと損害賠償等について協議をしていくと発表しています。また、マースク社の船予約システムに支障が出たことにより、同社は予約のキャンセル等により多大なる損失を被ったことが推測できますが、その損失の全容は現在も算出中であり、未だ不明です。マースク社は今後時間をかけ慎重に今回の影響について調査していくと発表しています。

なお、マースク社は今後の対策サイバーセキュリティを強化していくと発表していますが、今後海運業界のみならずあらゆる業界でデジタル化が進む中、サイバー攻撃対策はどの企業にとっても避けられない課題であると言えそうです。

◇◆◇◆◇◆